



豊かな子

創造的な実践力に富む、心豊かで、たくましい子どもの育成

明るく、思いやりのある子
夢に向かって、自ら学ぶ子
身体を鍛え、最後までやりぬく子



「心を見つめる教育週間」～私たちにできること～

先日の全校集会にて、「心を見つめる教育週間」に合わせた校長講話を行いました。

冒頭、私ごとで恐縮でしたが、半年ほど前に初孫が生まれたことを伝え、続けて子どもたちもお家の方から聞いたことがあるかもしれない「子どもの成長を願う行事」について話しました。お宮参りやお食い初め、七五三などのことばや写真を見せると、「あっ」という表情や「私もやった」という反応が返ってきました。



日本には古くから子どもの健やかな成長を願う美しい行事がたくさんあります。それらはすべて「生まれてきてくれてありがとう」「元気に育ってくれてうれしい」という、周囲のたくさんの愛情が込められたものです。

しかし、大切に育てられる一方で、悲しい現実もあります。後半は子どもたちには少し難しい「子どもの死因」について、データも交えながら語りかけました。低学年には5～9歳までの死因の第2位が「事故」であることを示しました。その事故とは「交通事故」と「溺れる事故」が大半を占めており、諫早小の子どもたちにとっても身近に潜む危険であることを伝えました。

そして、高学年には10代以降の死因の第1位が「自死（じし）」であるという、胸を締め付けられる事実を伝えました。なぜ自死を選んでしまったのか、どうすれば防げたのか。子どもたちにも、私たち大人にも、重い問いが投げかけられていることを、この教育週間で考えていこうと話しました。

命は、決して自分一人だけのものではない。多くの願いと愛情に支えられて今がある。子どもたちには「自分の心と命を大切にすること」を、そして保護者や地域のみならず、私たち教職員を含めた「大人」には、子どもたちの小さなSOSを見逃さず、命を守るために何ができるかを、ともに考え続ける1週間にしましょうと、この話をしました。

今週はメディアとの適切な接し方を考える「メディア講演会」や戦争の恐ろしさを知る「被爆体験伝承講話」も行ないました。これらも命やまわりの人を大切にすることにつながる大切なお話でした。金曜日には全学級で道德の授業を行います。

今週はご家庭でもぜひ、命についてお話ししていただければ幸いです。

